

…きこえますか。

さとやまの息吹。



高島市では、合併を記念する
とともに、リニューアル工事を
行っている今津文化会館の柿落
公演として「高島市さとやま劇場」
公演を行います。

公演では、子どもたちが描く
高島市への思いの朗読、5つの
太鼓団の競演、100人合唱団
と吹奏楽とのコラボレーション
などを通して、さとやまに生き
る私たちの息吹を舞台化。高島
市にしかできない舞台をぜひご
覧ください。

(新旭教育分室)

○参加上演団体(順不同)
アイリスウィンドオーケストラ
新旭鼓西太鼓・あど川ふじ太鼓
近江葦海太鼓・朽木太鼓・水尾太鼓
演劇集団つばめ・高島音頭保存会
大溝祭奏曳山保存会・湖西合唱協会
七川祭奴振保存会 ほか

構成・演出 大峰 順一
音楽 神代 充史
太鼓 西川 啓光
主催 高島市・高島市教育委員会
助成 財団法人地域創造

いいもん、みいつけた！

高島市合併記念事業・今津文化会館リニューアル柿落公演 高島市さとやま劇場

日時 2006年3月19日(日)
13:30開場14:00開演
場所 高島市今津文化会館
料金 1,000円(高校生以下500円)

求△

「高島市のこの景色が最高！」

市では、現在作成中の市勢要覧の中で、市民のみなさんから高島市の「とっておきの風景」を教えてください。それを現在作成中の市勢要覧の中で紹介したいと考えています。

みなさんのお気に入りの風景を、次の要領でお知らせください。

なお、お寄せいただいた個人情報
は、市勢要覧作成のためのみに使用
しますが、市勢要覧中で紹介させて
いただく場合がありますので、ご了承
ください。



- 1 「どこから見たか」の景色」かを具体的に
- 2 その風景が好きな理由
- 3 住所
- 4 氏名
- 5 年齢
- 6 電話番号



【応募要領】 右記①～⑥をご記入
のうえ、郵便またはEメールで
ご応募ください。

●締め切り 3月31日(金)

〒520-1592
高島市新旭町北畑565番地
高島市役所秘書広報課
「市勢要覧好きな風景」係まで
☎(25) 81-330
Eメール
koho@city.takashima.shiga.jp
(秘書広報課)

市長日記

暖かなお日様が心も体も柔らかくほぐしてくれました。雪を融かしてザゼンソウが顔を出しました。座禅草になって考えてみると良い知恵が湧くでしょうか。近くのお宮には、樹齢千年を超える滋賀県一の椎の巨木があるとか。

路の藁が市民にエールを贈っています。食べると苦いのですが、この苦さが冬の間に体に溜まった毒々を出してくれるとか。旬の恵みの有難さをちゃんと受け止めていますね。

いよいよ3月議会です。高島市の体力に見合った予算規模を模索しました。子ども達に大きな負債を残し支払わせることは、地元で暮らすことを躊躇させます。借金の返済に目処をたて、未来に希望がもてるように考えた3段階跳びで云うホッブ予算です。補助金や一部負担金、体育文化施設の使用料金の見直しは、市民全体で負担をどう分担するか考えた結果です。もっと良い工夫や方法があったら是非お教えください。

北風と太陽の寓話のように、厳しい北風では旅人はコートを脱ぎません。人を動かすのは暖かさであると思います。しかし自分の意思で、ちょっと寒いけどコートを脱ぎ捨てて歩き出す時が来たように思います。

今冬のホットニュースは、安曇川中学校のノルディックスキー(距離競技)リレーチームの近畿大会優勝。また、男女ア

ルペン選手が全国大会で上位に食い込むなど高島の選手が好成績を修めてくれたことです。トリノオリンピックの感動と重なります。

更に、石油の代わりに木屑を利用する「木質バイオマス活用」が表彰され、農水省関連の全国「美の里」コンクールでは、針江区が愛媛県の内子町に続いて第二席となり表彰を受けられました。これは、高島市の光る角度を教えていると思います。宇宙地球号が目指すのは、自然の回復力以上に奪ったり汚したりしない、自然との賢く上手なお付き合いです。高島の地は、地球や琵琶湖、山や川や田んぼの音が聞こえ、時の縦糸と習慣の横糸が織り成してきた歴史の教えや景観に触れられる貴重な所だと思っています。

「田舎は、都会との違いを価値にして売る。自分を磨く市民が、照りのある高島市を創るのだ」。野山の葉っぱを料亭に繋ぐことで、お婆さんが月80万円から200万円も稼ぐ「葉っぱビジネス」の中心人物の言葉です。「悪口は23倍に広がり、よい話は6倍にしか広がらない」とか。子ども達までが夢より不足を口にしてはいるようではいけません。郷土が良くなる習慣を始めましょう。この春は、大人が古いコートを自ら脱ぐチャンス。精気溢れる季節です。

海東英和 拝

シリーズ さとやまの郷 高島を目指して その三

雪に学ぶ高島



2月5日「環の郷」交流・研究センターにおいて、同センター冬の祭りが開催されました。イベントでは、雪水学に詳しい滋賀県立大学の伏見教授から雪不足が琵琶湖で採れる魚にも大きな影響を与えていることなどの講演や、滋賀県立大学や京都精華大学の企画による市民参加イベント「ゲータイユキダス」実験などが行われ、豪雪地帯でもある高島市の多様な風土を知る機会になりました。

会場では、成安造形大学による地域写真展や、旧三羊館で撮影された昭和初期の雪にまつわる写真の展示も行われ、旧三羊館の古写真を撮影された故石井田勘二さんご親族が大阪から駆けつけてくださるなど、人と人のつながりも広がりを見せていました。

また、朽木地子原の生活や歴史・文化をちりばめた*心象絵画が登場し、温かい猪汁を食べながら、朽木地子原の昭和20～30年代の生活などが、地元から3人の方をお招きし、紹介されました。夏には冬の、冬には夏の準備がなされ、生活の周りの自然から生活に必要なものを調達したところなど、生活が自然環境や気候などに密接にかかわる自然と人とのつながりがそこにあつたことを実感することとなりました。



*心象絵画

人の記憶の中にある思い出や経験を一枚の絵に表したものの。